

第77回国民体育大会 天皇杯19位 皇后杯14位

◎第77回国民体育大会（2022 いちご一会とちぎ国体）

2022（令和4）年10月6日（木）～10日（月）

栃木県・カンセキスタジアムとちぎ（栃木県立総合運動公園陸上競技場）

神奈川県選手団 天皇杯 57点 第19位 皇后杯 38点 第14位

順位	男女総合（天皇杯）		順位	女子総合（皇后杯）	
第1位	大阪	120.5	第1位	大阪	70.5
第2位	兵庫	107	第2位	兵庫	66
第3位	千葉	100	第3位	東京	62.5
第4位	静岡	98	第4位	愛知	54
第5位	東京	91.5	第5位	静岡	51
第6位	京都	89	第6位	滋賀	49
第7位	鹿児島	83	第7位	京都	47
第8位	福岡	82	第8位	北海道	46

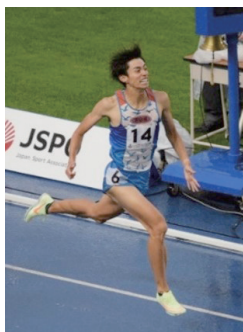


○神奈川県選手団 入賞者一覧表

種目	選手名	記録	順位
成年男子 800m	薄田 健太郎 筑波大学大学院	1分49秒84	優勝
少年男子A 棒高跳	木村 隼人 横浜清風高校	4m80	8位
少年男子B 100m	米山 和磨 横浜市立茅ヶ崎中学	10秒88(0.0)	4位
少年男子B 走幅跳	淡路 亮介 荏田高校	6m88(+1.0)	6位
少年男子共通 走高跳	山中 健太 旭丘高校	2m03	7位
成年女子 100m	高橋 明日香 バリュエンス	11秒92(+0.3)	6位
成年女子 400mH	イブラヒム 愛紗 メインワース	59秒52	6位
成年女子 走高跳	伊藤 楓 日本体育大学	1m75	6位
成年女子 走幅跳	下田 有希 日本体育大学	5m91(-0.4)	7位
成年女子 砲丸投	大迫 晴香 国士館大学	14m27	7位
少年女子A 100m	井上 瑞葵 東海大相模高校	12秒54(-0.9)	8位
少年女子A 300m	瀬田 陽菜 東海大相模高校	39秒05	3位
少年女子A 100mH	及川 理子 法政第二高校	14秒19(+0.2)	7位
少年女子A 砲丸投	吉沢 花菜 川崎市立橋高校	12m67	6位
成年少年女子共通 4×100mR	エゼ アマカ 久里浜中学	45秒91	6位
	高橋 明日香 バリュエンス		
	井上 瑞葵 東海大相模高校		
	三村 香菜実 青山学院大学		

◎入賞者からコメントをいただきました

薄田健太郎（筑波大学大学院） 成年男子 800m 優勝



今回の国体は高校3年生以来、実に6年ぶりの出場でした。

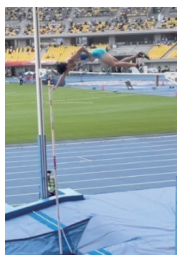
このレースは神奈川県のカプテンとしてチームを勢いづけた気持ち、そして学生として走る最後の800mだったため特別な想いがあるものとなりました。決勝は6年前の岩手国体を思い出すような、降りしきる雨の中行われました。スタートの号砲が鳴り、集団前方に位置付けてラスト1周に差し掛かる手前でスパートをかけ、最後まで逃げ切るという形で優勝することができました。

高校3年生の時から日本一になるという目標を掲げて陸上競技に取り組んできたものの、なかなか達成することができずに苦しい時間をたくさん過ごしました。そのような中、学生最後のレースで、そして神奈川県代表として日本一になることを達成できて嬉しい気持ちでいっぱいです。

これからは世界という、より一層の高みを目指して努力したいと思います。

最後にここまで僕を支えてくれた全ての方々、特に両親に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

木村隼人（横浜清風高等学校） 少年男子A 棒高跳 8位



私は中学1年の頃から棒高跳に取り組んできました。全中に出場することができなかった私は、高校で全国大会入賞にむけて日々努力してきました。高校3年の南関東大会で自己ベストの4m80cmを跳びインターハイ出場を決めることができましたが、決勝に進むことができませんでした。私の高校での棒高跳はここで終わりだと思っていたのですが、ありがたいことに国体出場のお話をいただきました。そこで新たに気持ちを切り替え、今までやってきたことを信じて、最後の最後で目標を達成することができました。記録は5mを目指していたので少し悔しいですが、入賞できたことが何より嬉しいです。今まで支えてくれた家族や監督、国体のスタッフの方々から感謝しています。これからは成年として全国で1位になれるように頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

米山和磨（横浜市立茅ヶ崎中学校） 少年男子 B 100m 4 位

この度、第77回国民体育大会の少年男子 B 100m 走に出場させて頂きました。このような大きな大会は初めてで、とても緊張しました。しかし、県の先生方や先輩方が気さくに声をかけてくださり、気持ちがあしほぐれました。予選は、雨が降り気温が低かったので、体温が下がらないように気を付けました。とにかく決勝に残ることを目標に思い切って走ることを心掛けました。無事に準決勝に残ることができ、寒さが強まる中、リラックスして走ることができました。翌日は、天候が回復し、良いコンディションの中で決勝に臨むことができました。緊張で体も硬くなりましたが、なんとか4位でゴールすることができました。そして、この国体で得た経験を、次のU16で生かすことができました。このような機会を与えてくださり、大変感謝しています。ありがとうございました。



淡路亮介（神奈川県立荏田高等学校） 少年男子 B 走幅跳 6 位

自分の中では2度目の全国大会。

去年、出場した全中では14位。今年のインターハイ路線では県で途切れてしまった。そして7月の国体予選で自己ベストである“7m00”を跳び、国体への切符を掴み取った。

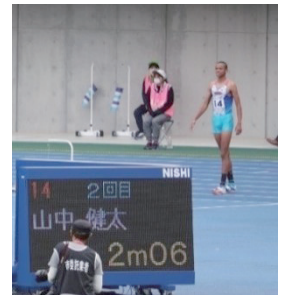
今回が初出場となる国体での目標はとにかく「楽しむこと」と、雰囲気にならぬ自分の跳躍をすること。そして迎えた本番。1・2本目では決勝に行ける記録を残せなかった。あと1本で記録を出さなければ決勝に行けない状況。だが、焦らなかった。なぜなら、第一に「楽しむこと」を考えていたからだ。

そして3本目。ピットに入る前に目標、先生方からのアドバイス、沢山の方々の応援を思い出した。

結果は“6m88”6位。順位、記録は悔しいものになってしまった。でも、この順位は僕1人だけの力だけでなく、応援して下さった方々、競技の前まで脚を見て下さったトレーナーの方々、競技中アドバイスをしてくださった先生方、のおかげだ。今回の国体で良かった所は、会場の雰囲気に流されず自分の跳躍が出来たこと、残り1本という状況から記録を残し決勝に行けたという勝負強さ、そして何よりも「楽しむこと」が出来た所だと思う。

山中健太（新名学園旭丘高等学校） 少年男子共通走高跳 7 位

まず、私が国体で入賞して感じたことは、仲間の大切さ、そして偉大さです。私は他のチームメイトよりも陸上経験が浅く、チームに馴染めるか不安でしたが、チームメイトや、コーチの方々の手厚いサポートなどがあり、すぐに馴染めることができました。また、自分の試合の時に招集場所までみんなで送り出してくれたり、試合中も自分が跳ぶたびに、拍手など、自分が伸び伸びプレーできるようにサポートしてくれました。そのおかげで自分は高跳びを最大限楽しむことができ、全国で初めて入賞することができました。この経験から、仲間の大切さや、偉大さをより感じる事ができました。自分は大学も競技を続けるので、大学でも仲間を大切に、仲間を支え、時に支え合えるチーム神奈川のような雰囲気作りを目指し、日々努力していきます。国体に出て、自分の陸上の視野がより広くなりました。また出れるように日々精進していきます。

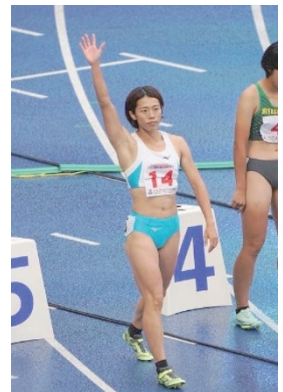


高橋明日香（パリュエンス） 成年女子 100m 6 位

今回、神奈川県代表として成年女子 100m と成年少年女子共通 4 × 100mR に出場いたしました。私自身、国体出場を長年目標にしていたので個人とリレーで神奈川県代表として選ばれたこと、とても嬉しく思います。会場にはレースの2日前から入りました。その前から共に神奈川県代表として戦うスタッフの皆様、選手と交流を深めていたこともあり、本番はいい雰囲気で試合に臨むことができました。結果は 100m とリレーどちらとも6位でした。両種目とも久しぶりの入賞とのことで少しでも貢献できたことは素直に嬉しいです。特に 100m は正直決勝に残れるとは思ってなかったので準決勝のレースが一番印象に残っています。組2着で決勝進出が確定だったのでゴールした瞬間の結果を待っているときが一番ドキドキしていました。リレーは国体でしかできないメンバー構成だと思うのでさまざまな世代がひとつになって戦うのがとても楽しかったです。決勝が終わってからもまた走りたねとみんなで話していました。上手くいけばまた来年もこのメンバーで走れる可能性があるとのことだったのでぜひまたこのメンバーに入れるように頑張っていきたいと思えます！

最後になりますが、陸上を始めて19年目のこのシーズンで初めての経験が出来て良かったです。また新たな気持ちで競技を楽しみながら日々取り組んでいきたいと思えます。

神奈川チームの皆様、本当にありがとうございました。



下田有希（日本体育大学） 成年女子走幅跳 7 位

10月7日から栃木県で開催されました国民体育大会において、神奈川県代表として成年女子走り幅跳びに出場させて頂きました。これまでコロナウイルスの影響により国体の中止が続いた中、今回が3年ぶりの開催となり久々の国体に神奈川県代表として選出させて頂いた分、1点でも多くチームに貢献する思いで競技に挑みました。試合の結果は、5m91cmで7位でした。この国体が今年を締めくくる試合でもあった為、今年目標であった自己ベスト更新に向けて挑みましたが達成することが出来ず、悔しい結果で終わってしまいました。しかし、この試合を通して自分の課題を明確に出来たことや日本選手権に出場していた選手の中で挑めたことがとても大きな経験となりました。これまで何度か国体に出場させて頂きましたが、今回から成年の枠となりレベルの高い試合に挑めたことが何よりも嬉しく感じています。今後も競技することへの楽しさを忘れず、学生ラストの陸上に思いを掛けていきたいと思えます。

大迫晴香（国土館大学） 成年女子砲丸投 7位

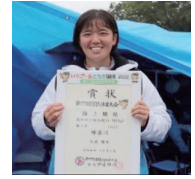
こんにちは。国土館大学4年の大迫晴香です。

成年女子砲丸投に出場させて頂き、14m27cmで7位入賞することができました。

3年前の国体で予選落ちを経験し、悔しい国体となった思いを国体で覆そうと強い気持ちで今回の試合に挑みました。昨シーズンから砲丸の試合はなかなか成績が出ず苦しむ時もありました。ですが今回は試合を楽しむこと、悪天候が分かっていたため事前準備をしっかりすることを意識しました。

コンディションが悪い中でしたが、準備のおかげもあり自分が思っている以上に記録が出て、「砲丸投ってやっぱり楽しい、もっと遠くに投げたい」という純粋な気持ちを思い出すことができました。

記録としてはまだまだ上の方では戦っていけないので、もっと強くなって戦える選手になって帰ってきたいと思っています。この結果が得られたのは、神奈川の先生方や周りの方々のたくさんの応援やサポートのおかげだと思います。応援ありがとうございました。



井上瑞葵（東海大学付属相模高等学校） 少年女子 A 100m 8位

少年女子 100m、共通 400mR に出場させていただきました。

初の全国入賞がこの大会で 100m 8 位、リレー 6 位という結果を残すことができました。悔いは残る結果ですが大会を運営して頂いた方、そして支えて頂いた神奈川の方のおかげで残せた記録なので、感謝の気持ちでいっぱいです。

今までは、全国に行くこと、決勝に行くことが目標だったのですが、この大会を通して目標が決勝で戦い日本一になることになりました。

納得のいくレースができなかったという弱さを身に染みて感じられた大会でもあるので来年は県内にも素晴らしい選手はたくさんいるのでまずは県内で勝ち切る選手になり、全国でも活躍します。そして来年も神奈川代表として鹿児島国体で戦えるよう強くなって戻ってきます。期待して下さい。

瀬田陽菜（東海大学付属相模高等学校） 少年女子 A 300m 3位

少年 A 300m に出場し、3 位に入賞することができました。初めての神奈川県代表でとても緊張しましたが、先輩方や先生をはじめとする多くの方々を支えてもらい楽しむことができました。

今シーズンは様々な全国大会に出場でき、嬉しい思いも悔しい思いもたくさん経験できました。

今大会は調子が良い状態で挑め、チーム神奈川で掲げていたスローガン「ダイナミックチャレンジ」を達成することができました。しかし、優勝できず自分の実力不足や勝負の難しさを改めて実感しました。

この経験を生かして、来シーズンはインターハイ優勝、神奈川県記録更新を目指して頑張ります。応援ありがとうございました。

及川理子（法政大学第二高等学校） 少年女子 A 100mH 7位

国体に選手として選んでいただいた時、神奈川県代表として国体に出場できる嬉しさ、いつも一緒に走っている仲間がいない環境での競技に対する不安、たくさんの思いがこみ上げました。夏のインターハイでは、準決勝敗退という悔しい結果に終わってしまったので、決勝に行くことを目標とし、たくさん練習しました。

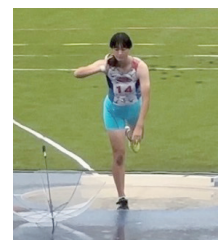
大会当日はまだ全国という舞台に慣れていないため、速い選手ばかりに目が行きネガティブになってしまいましたが、自分が一番速いのだと言い聞かせ、自信をもって走りました。予選ではスタートを出遅れてしまい、自分のリズムで走れていませんでしたが、準決勝では予選の走りを修正することができ、決勝につながる走りができました。今大会は、高校に入ってから初めての全国決勝ということもあって決勝に行けた瞬間ホッとして少し力が緩んでしまいましたが、来年は決勝に行くことは絶対、残るだけではなく決勝でより上の順位を狙えるような選手になれるよう頑張りたいと思います。



吉沢花菜（川崎市立橘高等学校） 少年女子 A 砲丸投 6位

この栃木国体は私にとって初めての国体でした。神奈川チームが結団された頃はこのチームと一緒に戦うことに緊張や不安ばかりで縮こまっていました。ですが現地入りをしてからは神奈川チームのコーチ陣やチームメイトによる盛り上げや雰囲気作りで国体の雰囲気を楽しんで自分らしく本番を迎えることができ、少年女子 A 砲丸投で 6 位に入賞することができました。この国体を経験して、たくさんの方にありがたみを感じ、より一層感謝を形にしていこうと強く思われた国体になりました。また試合で戦って自分らしさを大切にして陸上競技に向き合っていくことの大切さを感じさせられました。私は砲丸投とやり投で国体の選手に選んでいただきました。選んでいただくまでに、たくさんの方の支えて陸上競技を続けることができ、シーズン前の足や腰の怪我も乗り越えて国体に出場することができました。

今大会を開催するにあたって審判や補助員など運営に携わってくださった方々、今までの陸上人生で私と関わってくれて今の私を作りあげてくれた全ての方に感謝をすると同時に、その感謝の気持ちを結果に変えて恩返しできるように、入賞を目指して挑んだ国体でしたが、やり投は肩の故障で棄権という形になりました。砲丸投は 6 位で終わることができましたが、やり投で恩返しが出来なかった分、大学でもやり投を続けいつか砲丸投とやり投で成年の部で国体に戻ってきたいと思っています。日本一になるためにはピットに立ったときも投げでも自分らしさを表現できることが勝利に繋がると実感したので自分らしく陸上競技に向き合い日本一を実現したいと強く思いました。



エゼ・アマカ（横須賀市立久里浜中学校） 成年少年女子共通 4 × 100mR 6 位

今回国民体育大会に出場させていただける事が決まった時は、驚きと同時に嬉しさと不安でいっぱいになったことをよく覚えてます。

練習会では、一緒にリレーを走らせていただく高校生や大人の選手の方々と合同の練習を重ねていく中で一番強く感じたのは練習内容のレベルはもちろんですが選手・監督・スタッフの皆さんの関係の濃さ・深さでした。中学生チームとは違う真の一体感を感じ、自分もこんなチームを作っていく力をつけたいと思いました。

大会当日、リレーメンバーの皆さんが「バトンを繋ぐことは大切だけど楽しんで走ってきて。後は任せて。」と言ってくださった言葉が心強く、私の緊張を和らげてくれ、逆に絶対に繋ぐぞ。という気持ちに改めてなりました。結果も県として 10 年ぶりの入賞となり、とても嬉しかったです、やはり自分の得たものの大きさが最大の喜びです。

会場では、多くの名選手が、黙々と自分のすべき準備やトレーニングをしており、その緊張感を間近で見ることが出来たことがとても勉強になりました。私もあのような選手になりたいと強く思い、これからも頑張っていこうと思いました。貴重な成長の期待を与えていただいたことに感謝します。

三村香菜実（青山学院大学） 成年少年女子共通 4 × 100mR 6 位

この度、成年少年女子共通 4 × 100mR にて、6 位に入賞いたしました。入賞に加え、目標としていた 45 秒台の記録を出すことができ、嬉しく思います。今大会を通し、多くの方に支えられて競技ができていくことを改めて実感いたしました。日頃応援して下さる方々の期待を上回るパフォーマンスができるよう、今後もより一層励んで参ります。現地にてサポートして下さった先生方をはじめ、応援して下さった皆様、この度はありがとうございました。



◎秩父宮賜杯第 75 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

期日：2022 年 8 月 3 日～8 月 7 日

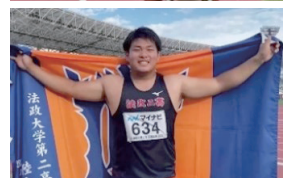
場所：徳島県 鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム

○ 山田暉斗（法政大学 第二高等学校） 男子砲丸投 優勝 18m74（大会新記録、神奈川県高校記録）

全国高等学校陸上競技選抜大会で優勝しました山田暉斗です。

3 年間の集大成であるこの大会で優勝、そして大会記録並びに県高校記録更新という結果を残すことが出来て良かったです。昨年の全国大会では 4 位という結果で終わってしまい悔しい思いをしたので、より一層勝ちたい思いがありました。高校 1 年生の冬から投げ方を変更したこともあり、2 年生の間は思うように記録が出ずに歯痒い思いをして来ましたが、3 年次の春先から少しずつ投げがまとまってきて、なんとか全国大会の舞台上で記録を残すことが出来ました。

この結果はもちろん自分だけの力ではなく、親身になって教えて頂いた指導者の方々、サポートして頂いた家族友人など周りの環境に恵まれていると改めて実感した 1 年間になりました。残りの高校生活では更に記録を伸ばして県記録の更新そして日本高校記録を樹立して今まで支えて下さった方に少しでも恩返しができるように一層練習を頑張っていきます。



◎第 49 回全日本中学校陸上競技大会

期日：令和 4 年 8 月 18 日～21 日

場所：福島県 とうほう・みんなのスタジアム

○ 鴨田るな（相模原市立旭中学校） 女子走高跳 優勝 1m63

『気になって、気になって仕方ありませんでした。』

それまでの大会では会ったことがない選手ばかりでウォーミングアップの時から周りの選手が気になってしまっていたのです。

そして、会ったことがない選手ばかりで緊張感も漂っていました。そんな中、「ここで絶対に跳んで優勝したい！！」という強い気持ちを入れ直し、「集中」することができたのがよい結果に繋がったのだと思います。

また、私にとっては競技の合間に他県の選手たちと話をし、終了後写真を撮ったり連絡先を交換したり、同じ種目同士の「あるある」話が出来た事も宝物の一つになりました。

優勝できたことで何よりうれしかったことは、家族や学校の友達・先生やコーチが自分の事のように喜んでくれたことです。

優勝は最高の結果ですが、自分の実力通りの結果ではないことは自分が一番よくわかっています。私にはまだ来年もチャンスがあります。

だから来年は自分でも最高に喜べるよう練習していきます。

大会が終わるまで食べるのを我慢していた「ピノ」を、優勝できて食べられたことは自分の中ではうれしかったです。



本年度の新規事業として8月10日(水)から12日(金)までの2泊3日、静岡県御殿場市・裾野市・小山町を練習会場として、『神奈川陸上競技協会長距離夏季合宿』を実施しました。これは神奈川県を代表して出場する東日本女子駅伝競走大会や全国都道府県対抗男子・女子駅伝競走大会に出場する選手の強化事業の一環として行われたものですが、高校生にとってはインターハイ終了から間もない時期であったり、また中学生は関東大会が終了した日から合宿がスタートするといった、日程的に大変難しい面があったにもかかわらず、多くの方々のご理解とご協力を得ながら無事に終了することができました。

以下に今合宿に参加した中学・高校の選手の感想を掲載いたします。今後もこの夏季合宿が選手強化に繋がる大切な場となるようにさまざまな検討と改善を重ねて参りたいと思います。

●第1回 神奈川陸上競技協会長距離夏季合宿 概要

- ①日程： 8月10日(水)～12日(金)
 ②宿舎： 富士ざくらホテル
 ③練習場所： 遊ランパーク・水ヶ塚公園・裾野市陸上競技場
 ④参加者 スタッフ：5名 選手：28名(男17・女11)
 内訳 ①一般 3名(男1・女2)
 ②高校 13名(男7・女6)
 ③中学 12名(男9・女3)



⑤活動内容

上記③練習場所でのトレーニング以外に、パナソニック安養寺監督による講話やDeNA所属 館澤選手による動き作りなども含め、大変密度の濃い活動内容でありました。



藤沢市立鶴沼中学校 伊東 輝恵

合宿日程が関東大会と全国大会の間であったため、参加するかどうか大変迷いましたが、合宿に参加してとても勉強になることが多く、今は思い切って参加をして良かったと思っています。

私が一番印象に残っていることは、憧れの実業団選手や高校の選手と一緒に練習ができたことです。そして、自分の練習ペースを実業団や高校の選手に引っ張ってもらえたことで、普段学校ではできないような練習ができました。また、移動中のバスの車内で気軽に話しかけてもらったことで競技や高校のことなど、たくさんのお話も聞くことができました。

合宿の練習メニューには標高の高い場所でのトレーニングが含まれていました。これは私にとって初めての経験でしたが、徐々に身体に慣れるようにメニューも工夫されていたので最後までやりきることができました。また、練習以外にも高地トレーニングの効果や、競技者向けの食事についての座学があり、大変勉強になりました。

今後は合宿で学んだことを活かし、自分の学校に戻ってからもしっかりと練習を行い、都道府県駅伝の代表に選ばれるように頑張ります。

川崎市立橋高校 伊藤 春輝

今回の合宿は「チーム神奈川」として絆が深まった、密度の濃い合宿でした。そして、新型コロナウイルスの影響で思うような活動や遠征が出来ない状況の中で神奈川県を代表する選手を対象とした合宿に参加を呼び掛けていただいたことに大変感謝をしています。

今年は全国都道府県対抗駅伝が急遽中止となったり、インターハイ予選会が無観客下で行なわれたりと悔しい気持ちでいっぱいでした。しかしながら、合宿中の先輩方の競技に対する意識の高さに触れたことや、また中学生を含めた周囲のメンバーに気を配るその姿を見ることで曇りがちだった自分の気持ちを晴らすことができました。

今回の合宿は競技面以外の成長以外に1人の競技者として多くの刺激を受けることができました。今後は今回の合宿中に憧れの選手と一緒にペースメイクをしていただいたことやクーリングダウン中に気軽に声をかけてくださったことに感謝し、自分が中学生や高校生全体を引っ張っていけるような選手に成長できるように努力をしていきます。

川崎市立塚越中学校 貝原 悠里

今回の合宿の目的には選手同士の絆を深めることが含まれていましたが、それを聞いた時には絆を深めるのも大切なことではありますが、それよりも強化の方が一番の目的ではないのかと感じました。しかし、何故絆を深めることが大切であるかという理由を聞いた際に自分の考えを思い直しました。それは今回の合宿は「駅伝」に向けての強化を目的としたものだからです。駅伝は個人ではなく、チームスポーツであるため、仲間との関わりが大変大切だと改めて感じました。

また、私は高校生や一般の選手など、普段あまり関わることがない人たちと短期間ではありましたが一緒に過ごしてみて、「生活面」の意識の高さを感じました。何事にも積極的に行動し、周囲への気配りができていました。速い選手というのは競技だけでなく、生活のあらゆる面で自分に甘えることなく、自分に対して厳しく生活していることが分かりました。私は今回の合宿を通して競技面、生活面で多くのことを学ぶことができました。今後は学んだことを活かし、合宿を通して深まったチーム神奈川の絆をさらに強固にする努力をしたいと思っています。

現在も世界各国でコロナ禍が続いている状況のなかで今回の合宿を開催していただき、関係者の皆様には大変感謝申し上げます。東日本女子駅伝競走大会、全国都道府県対抗駅伝に向け、「神奈川県の高距離を強くする」という目的の強化合宿に私も加わることができ、大変嬉しく思いました。

私は今夏、初めてのインターハイを経験し、全国ではまだまだ通用しないと痛感させられ、より練習を頑張りたいという気持ちで今回の合宿に参加しました。普段の学校での練習では簡単には行けない標高の高い場所での練習も含まれ、大変恵まれた環境での合宿となりました。いつもの大会では互いにライバル関係である選手とも交流することができ、お互いに高め合いながら練習に励むことができました。また、実業団ランナーの方々からは、モチベーション維持の方法や練習を継続するために行なっていることなど大変有益な話を聞くこともでき、自分の未熟さを感じると共に走ることが仕事であることのごさを感じました。

今年1月京都で行なわれた全国都道府県対抗駅伝では県代表として走ることができませんでしたが、来年こそは神奈川県チームのメンバーとして襷を繋げられるよう、そして、優勝という目標に貢献できるように一層頑張っていこうと思います。

～トピックス～

◎ 2021 年度栄章受章者の紹介

神奈川陸上競技協会 橘川眞佐志会長は、日本陸上競技連盟「2021 年度功労章」を第 77 回国民体育大会（栃木・カンセキスタジアムとちぎく栃木県立総合運動公園陸上競技場）にて受章されました。

足柄上郡陸上競技協会副会長（神奈川陸上競技協会参与）鍵和田 実氏は、秩父宮章を受章されました。



新田 望（法政大学第二高等学校）
2021 年度高校優秀選手章受章



高橋 海吏（瀨谷市北の台中学校）
2021 年度中学優秀選手章受章



山崎 正俊（横浜国際高等学校教諭）
2021 年度高校優秀指導者章受章



2022 年度関東陸上競技協会感謝状は、第 95 回関東陸上競技選手権大会にて授与されました。

受賞者（左から）

- ・金澤 健敏（神奈川陸上競技協会 常務理事）
- ・小出 敏之（神奈川陸上競技協会 普及部長）
- ・衣川 清（神奈川陸上競技協会 競技場管理委員）

◎ 都市陸協だより（第 15 回：伊勢原市陸上競技協会）

本協会の年間事業は、秦野市選手権、記録会 1 回、かながわ駅伝強化練習会、小学生陸上クラブ（かけっこクラブ）月 2 回（年間 24 回）、中学校総体陸上競技大会、走れ走れ大会、伊勢原駅伝、大山登山マラソン大会（共催）等ですが、近年は、コロナ禍のため中止又は縮小して開催するなどの対応を余儀なくされました。また、伊勢原市は公認の陸上競技場が無いため、競技会を開催する時には、近隣市の競技場をお借りしての開催し併せて競技役員についても近隣陸協からの応援で開催する状況であり、審判員の育成や会員数の減少を止める事が今後の課題と感じています。

しかし、昨年の東京オリンピックの代表選手に選ばれた石川さんや大学で活躍されている飯澤さん等トップレベルの選手が伊勢原市出身であり中学生達の目標的になっていけるように競技人口の増進にも力を注げればと考えています。

今年度の登録者数 93 名（内、審判 40 名）、かけっこクラブ会員数 70 名です。

今後も陸協運営でのご協力及びご指導の程宜しくお願い致します。（伊勢原市陸上競技協会 会長 足立 徹）

※次の「都市陸協だより」は南足柄市陸上競技協会にお願いします。